

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学生集会所	階数	地上3F、地下2F
建設地	京都府京都市左京区	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	283 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2013年12月21日
敷地面積	70,727 m ²	作成者	積 満也
建築面積	803 m ²	確認日	
延床面積	2,986 m ²	確認者	出井文彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 学生の溢れ出す熱気と鼓動を包み込む次代の100年建築。 旧学生集会所の建物デザインを継承し、歴史的・文化的価値を継承する。 		
Q1 室内環境 <ul style="list-style-type: none"> 遮音性能の高いコンクリート造とする。 外部と面する窓は防音性、断熱性に優れている複層ガラスとする。 	Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> 各クラブの活動が行いやすいよう、天井高を十分に確保する。 腰壁に羽目板を設置し、旧学生集会所のデザインを継承する。 	Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 旧学生集会所のデザイン構成を継承し、屋根：瓦屋根、外装は基礎部：木仕上、上部：白を基調とした塗装仕上とし、山並み背景型美観親地区に調和する建物とする。
LR1 エネルギー <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電を導入し、自然エネルギーを利用する。 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> 京都府内産材やリサイクル資材の利用、有害物質を含まない材料の使用により、環境負荷を抑える。 	LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> 周辺環境に対して、大気汚染、騒音、悪臭、光害などの過剰な負荷をかけない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される